

令和3年第1回定例会総体質問通告事項

3 月 12 日	前田孝人議員（尾道未来クラブ）	質問方式：一括質問方式
	<p>1 市長の総体説明について</p> <p>(1) コロナ禍にあって重要課題である市内経済の回復、地場産業を支える予算があまり見えず物足りなさを感じる予算編成。これで令和3年度の施策目標に掲げる「活力ある産業が育つまち」を進めていくことができるのか</p> <p>(2) スマートシティは行政サービスだけではない。市民生活や商工業などの経済活動の活性化につながるような夢を実現するプランを示す事が必要だ。何か施策を考えているのか</p> <p>(3) テナントが撤退したJR尾道駅。周辺の活性化のためとして、しまなみサクラ公園へサイクリストのための交流施設を建設するとしているがそれは適正な施策か。それよりもテナントの誘致をする事が優先だと思うがどうか</p> <p>(4) 市内中心部の久保、長江、土堂の3小学校の統合について、教育長は昨年の総体質問の答弁で中学校も含めた将来の在り方を改めて提案するとした。常々スピード感を持った行政運営をするよう指摘をしているが、あれからもう1年になる。どのような案を考えているのか</p> <p>(5) 近年地域コミュニティの崩壊が社会問題化している。行政として問題点をしっかり見極めた対策が必要と思うがどうか</p> <p>2 尾道市の教育行政に新たな一步を刻むこととなる学校給食</p> <p>(1) 全員喫食による中学校給食の早期開始。また学校給食施設は共同調理場方式を基本とし整備を行うとする計画がでた。これは評価するものである。ただ今まで教育委員会はこのことを否定というか拒み続けてきた。教育委員会の学校給食に対する方針は何時またどのような理由で変わったのか。変更した反省というか総括はどのようにしたのか</p> <p>(2) 給食施設整備の期間を10年間としているが遅すぎる。子どもたちをまだ待たすつもりなのか。もっとスピード感をもって少なくとも5年で終わるように進めるべきだがどうか</p> <p>(3) 尾道地区の共同調理場施設を2カ所計画しているが、児童数の減少、効率的な施設運営、衛生管理の平準化など、将来を見越して1カ所の大規模共同調理場施設とするべきだがどうか</p>	

<p>3</p> <p>月</p> <p>12</p> <p>日</p>	<p>3 令和3年1月22日。世界の歴史の1ページに大きく刻み込まれることとなった核兵器禁止条約の発効</p> <p>(1) 非核平和都市を宣言している尾道市。また平和首長会議に加盟している平谷市長。世界で唯一の戦争被爆国である日本が条約制定の段階から参加もせず、批准はもとより署名もしていないことをどのように受け止めているか</p> <p>(2) 加盟している平和首長会議、非核宣言自治体協議会を通じて取り組みを行っていると思うが、核兵器のない世界実現のため尾道市長として日本政府に核兵器禁止条約への署名、批准をするよう強く働きかけるべきだと思うがどうか</p>
--------------------------------------	--